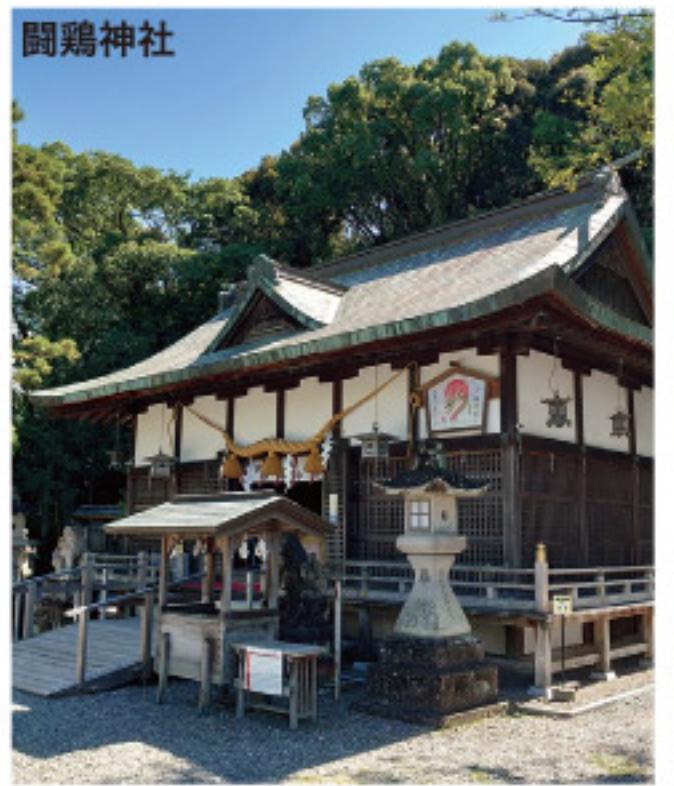




火野人

*2024年10月発行 *企画・制作・発行・デザイン／朝ドラ「らんまん」顕彰会
〒789-1201 高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方 kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp

vol.9 らんまん稔りの秋特集！



大正13年9月22日、62歳の牧野博士は和歌山県東牟婁郡那智勝浦町から乗船、「午後一時頃田辺に着し、宇井縫藏氏迎へ呉れ、共に同氏の宅に入り、同氏方に」（『牧野富太郎植物採集行動録』）1週間余り滯在し植物採集を行ないました。博士を案内したのは田辺高等女学校の宇井氏や北島脩一郎氏、同校校長脇村民次郎氏、田辺中学の中島濤氏等この地域の生物研究者達です。同校を採集品整理の拠点とし、神島、畠島（白浜町）、高山寺、稻荷村、墓岩、鬪鷄神社等を巡っています。

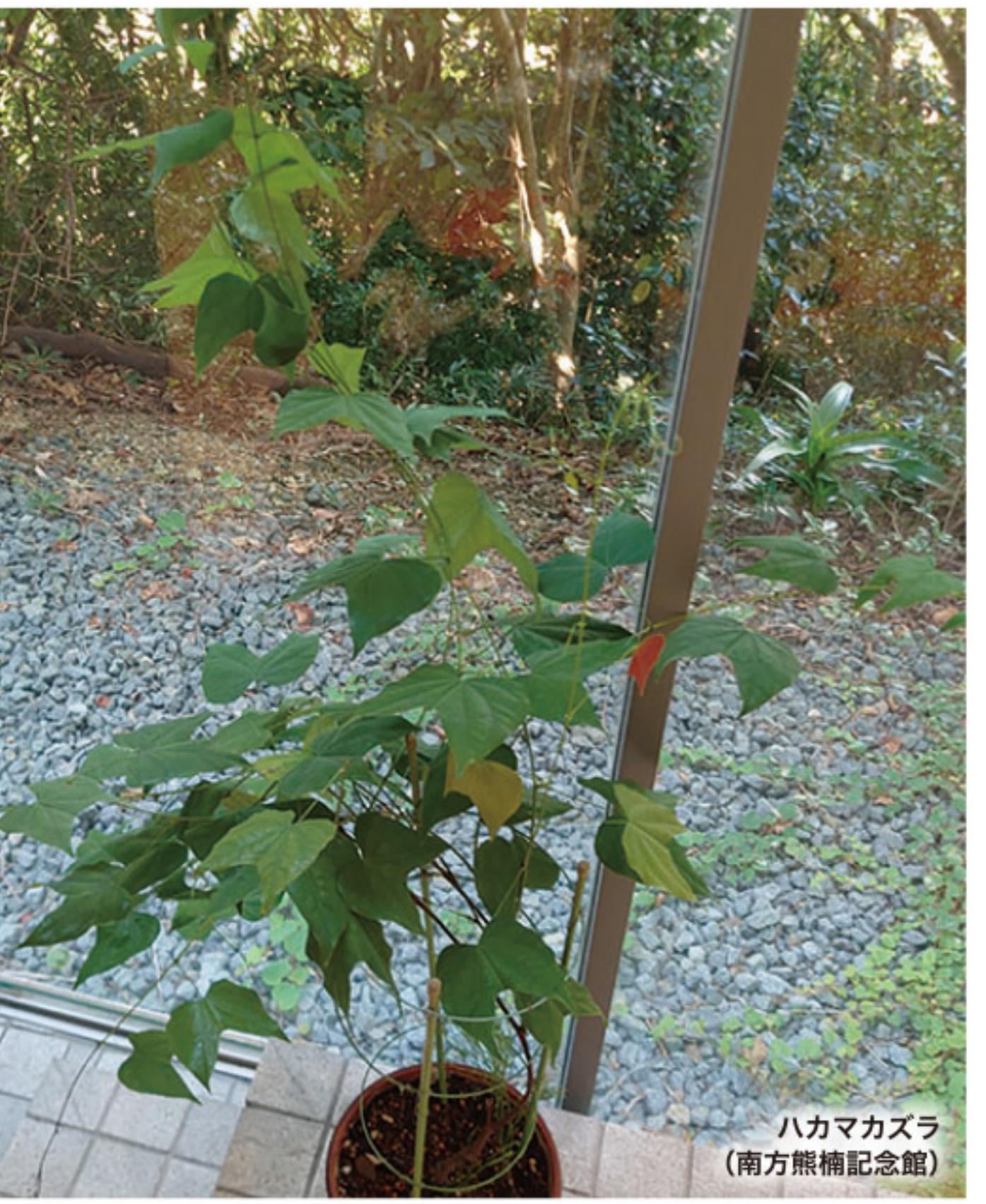
23日に水産試験場のモーターボートで渡った神島ではハカマカズラ（通称ワンジュ。熱帯系のマメ科のつる性植物。本州では和歌山県海岸部のみに分布）を採集しています。孤高の科学者南方熊楠は「ハカマカズラの存在をもつて、強く神島の保全を主張」（南方熊楠記念館パネルより）し、昭和11年神島は国の天然記念物に指定されました。

熊楠ゆかりの地を巡っているわけですが、当時「熊楠は家族の看病のために面会を謝絶」「しかし、弟子達に鬪鷄神社、稻荷神社、高山寺、ひき岩など、熊楠が日常的に採集に赴いた地点を（牧野博士が来たら）案内するようアドバイスしていた」そうです。（南方熊楠顕彰館2023年企画展「牧野富太郎と南方熊楠」より）

熊楠は明治33年にロンドンから帰国、明治35年には熊野・那智山を中心に植物採集を行ない、明治

私が気になつたのが、牧野博士が滞在した宇井氏の家と熊楠の家との距離。それを確かめようと今年9月13日、3回目となる南方熊楠邸訪問ですぐにそのことが分かりました。同邸に常駐され、熊楠存命中の邸内復元図を描かれた榎本邦子さんが、「田辺町周辺の岡熊楠が歩いた大正・昭和初期の頃」という住宅地図もまとめられていました。宇井氏邸は闘鷄神社参道（宮路通）にあり、熊楠邸からは徒歩5分の距離でした。富太郎と熊楠、直接言葉を交わす機会は残念ながらなかつた…。

卷之三



探訪牧野博士の歩いた道 田辺市(和歌山県)

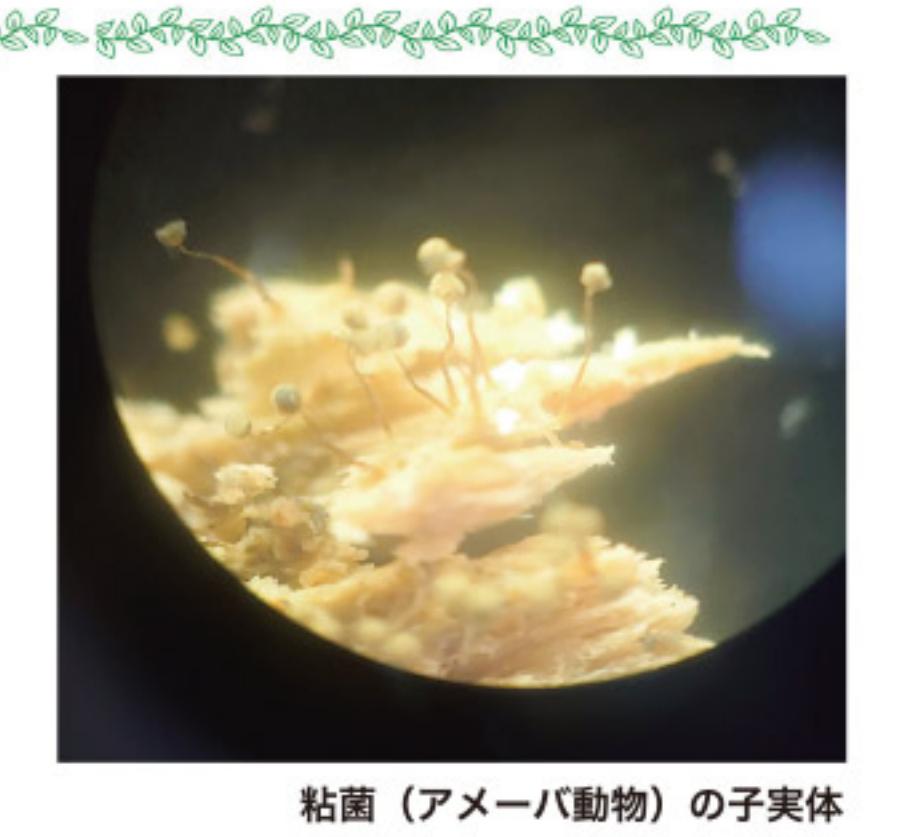


田辺市（和歌山県）
カズラを採集

37年から田辺に居住。大正5年に
田辺市中屋敷36番地にある現南方
熊楠邸に終生住んでいます。同企
画展資料によると、「この間採集し
た高等植物を、同郷の宇井縫蔵を
介して牧野に送り、同定してもらつ
てある。やはり、当時の日本の高
等植物分類の権威は牧野富太郎で
あつた。しかし、熊楠自身が送つ
て同定をお願いせずに、宇井を通
して送つてることが興味を引く」と
とありました。



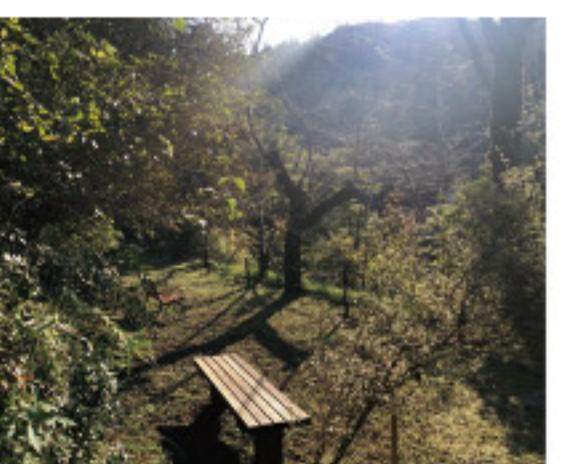
非歩いてみてください。
(市川浩司)



粘菌（アーベル動物）の子実体



がお世話してくださるお陰で、今年もこのプクプクと可愛らしい花に会えました。



豊かな自然、明るい未来を、
サプライチェーン・ロジстиクスで

沿口ジスティクスグループは、持続可能な未来に向けて、地域の皆さんとともに歩みます

http://www.yusen-logistics.com/jp_ja/



牧野富太郎博士が好んだ牛肉の旨みと脂に、牧野野菜「潮江菜（うしおえな）」・「山内家伝来大根」、その他野菜をたっぷり一緒に巻き込んであります。

演長さんのセンスが光るパッケージ

牧野寿司登場！

**限定
30本！**

**今年も恵方巻きの季節に
料亭 濱長さんで販売が決定！**

ベストセラー「おすしやさんにならっしゃい！」「すし本」の作者で、海、魚、すし、海藻にまつわる様々な活動を展開中の「すし作家」・詐飯屋 岡田大介さん**が感想を送ってくださいました！**

2022年といえば、NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送が決定した年。当時、高知市にある学校法人龍馬学園龍馬情報ビジネス＆フード専門学校の調理経営学科2年生で取り組んでいる「オリジナルメニュー制作」の中にも、おもしろい企画が登場しました。その名も「牧野寿司」！牧野富太郎博士が好んだ牛肉、そして博士が信頼できる人物に種を保存しておくよう依頼したことが復活に繋がった牧野野菜の中から、「潮江菜（うしおえな）」・「山内家伝来大根」を使用した太巻きずしです。考案したのは高橋大輝さん。高知の料亭「濱長」さんのご協力により2024年2月3日、限定30本販売されたものを、知人が送ってくれました。郷土寿司大団高知県は、このようにして日々新しいすしが生まれて、気がつけば日本一郷土寿司が多い県となつたのだなと納得。これからも高知のすしも目が離せません！



「IWSC(インターナショナル・ワイン・アンド・スピリット・コンペティション)」(英国)の2024年のコンペにて、「マキノジン」が「Silver(銀賞)」を受賞されました！

「IWSC」と言えば、1969年に創設された歴史ある酒類コンテストで、世界のワイン、スピリット、ウイスキーなどを対象に審査され、(会長はロバート・モンダヴィをはじめとした著名人達が務める)世界で最も有名な酒類コンペです。しかも、世界的なクラフトジンブームの昨今、「ジン部門」は800点を超える今年最大のエントリー数だったらしく、「Gold」はわずか66点。「Silver」は359点だったそうです。そんな中で、新発売してわずか3年目の「マキノジン」が、世界で最も権威と歴史を誇る「IWSC」で「Silver」を受賞できたのは快挙と言えるでしょう。さらに8月12日には「IWSC」と共に世界三大酒類コンテストと言われる「ISC(インターナショナル・スピリット・チャレンジ)2024」(英国)にて、「マキノジン」は「Bronze」つまり銅賞を受賞! 「マキノジン」の開発者兼プロデューサーの塩田貴志さん(高知市のBAR「Craps」オーナーバーテンダー)、誠におめでとうございます。司牡丹の蔵(元牧野富太郎博士の酒蔵)にある「マキノ蒸溜所」の看板(塩田さん寄贈)には「ヨウコソマキノジョウリュウジョウへ サカワチヨウカラセカイへイクヨ」と書かれていますが、この度の2つの受賞は、早くも世界に向けた一步を踏み出すことができたという証し。今後の展開がますます楽しみです!



2012年牧野博士生誕150年の年、「植物の精」が息づく町『佐川町』【牧野富太郎の聖地を歩く】コースの開設案》が作成されました。

150年の年、「植物の精」が息づく町『佐川町』【牧野富太郎の聖地を歩く】コースの開設として開設・整備し、県内外から広く参加者を募る植物観察会を開催して、観光振興策の一助としたとの熱い思いがあり



タニジャコウソウ
学名: Chelonopsis longipes Makino

代植物学の礎に多大な貢献をした佐川町の野山は、植物学者・牧野富太郎の「聖なる地である」とし、コース開設の目的を「牧野富太郎が歩いた植物採集の道を地域の特色ある観光資源としてとらえ、「植物愛」を体感できるコースとして開設・整備し、

県内外から広く参加者を募る植物観察会を開催して、観光振興策の一助としたとの熱い思いがあり

ます。

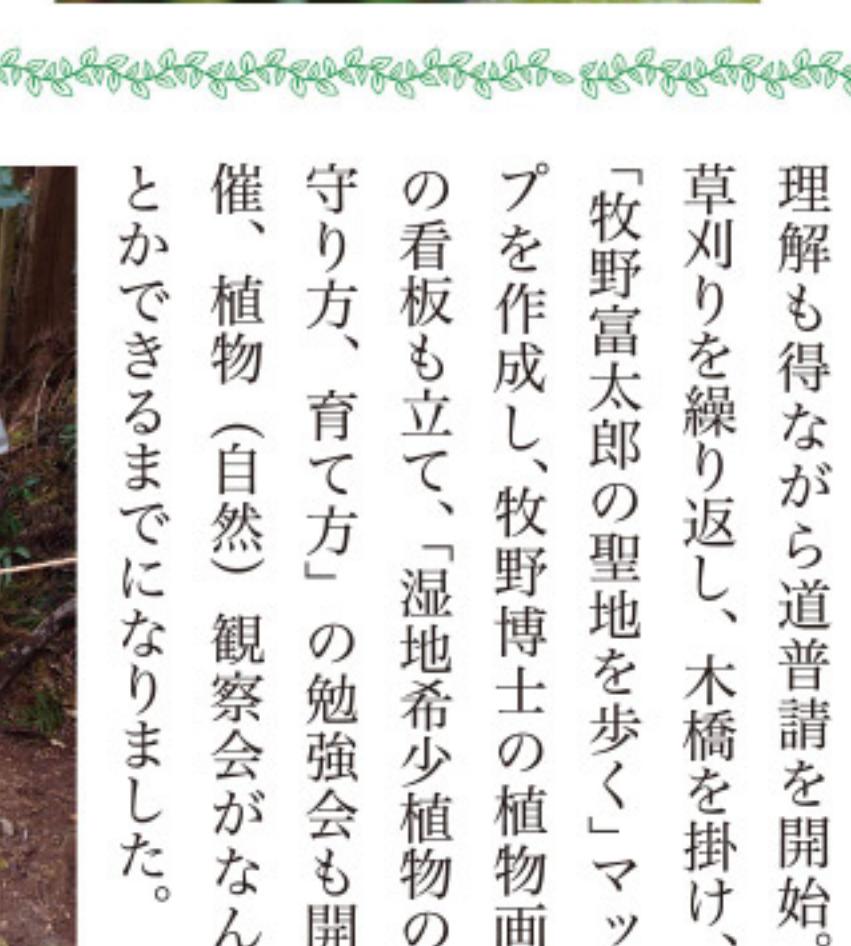
竹田氏はこのコース開設(案)で、牧野青年が多く植物を探集・観察した場所、牧野青年が命名・植物図等に発表した植物が130年以上経つ今なお現存する場所、幼年期からの牧野博士の思い出の地等の条件にかなう次の六つの観察コース①南側山麓コース、②虚空藏山コース、③赤土峠コース、④尾川・古畑コース、⑤奥の土居・目細谷・御土居コース、⑥谷地峠コースを提案しました。

このなかで、牧野博士生家から見た「南側山麓コース」

10年を経過した2022年8月、朝ドラ「らんまん」の放送が同

2024年には一般財団法人日本森林林業振興会高知支部から

佐川さとやま遊友会の活動に対



室原・鳥の巣ルートの架橋作業



西谷・岡崎ルートの道普請

西谷から岡崎へ抜ける峠付近に

は博士が佐川の珍しい植物の一

つにあげているエダウチホング

ウシダが自生しています。室原

から島の巣へ抜ける途中の粕谷

(カヌタニ) 地区は湿地の植物が

豊富で、博士は1887年9月

8日に粕谷で採集したサギソウ

の植物図を描いています。サギ

ソウは現在高知県では絶滅種で

豊富で、博士は1887年9月

8日に粕谷で採集したサギソウ

の植物図を描いています。サギ